

【令和6年度 数学科授業改善推進プラン】

数学科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・数量や図形などの基礎的な概念や原理、法則について理解する力
- ・事象を数理的に考察し表現する力
- ・数学の良さを実感し、数学を活用して考えたり判断したりする力

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・授業に集中して取り組む生徒が多い。 ・文章を読み取り、数式等に表すことを苦手とする生徒が見られる。 ・授業中に理解した内容の定着が不十分な生徒が見られる。	・授業に集中して取り組むことができる生徒が多い。 ・計算等の知識・技能が身に付いている生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ・文章を読み取り、数量関係を考えたり、図や表、グラフに表したりすることが課題である。	・受験を意識した取組ができている。多くの生徒が授業に集中して取り組んでいる。 ・既習内容の理解が不十分な生徒がいる。 ・証明のような記述を苦手とする生徒がいる。
学力調査結果	<全国学力調査> 平均正答率は都平均より4ポイント上回る結果となった。正答数を四分位数で見ると第2、3四分位数で東京都の値よりも上回っている。そのため、数学を苦手とする生徒が少ないと分かる。全ての領域で都と全国の値よりも上回っている。特に数と式、図形で高く、評価の観点では知識・技能と思考・判断・表現ともに高い。記述式の問題でも平均よりも高い数値になっているが、他の項目よりも低い結果になっている。		
指導上の課題	・具体物や身近な例を活用し、課題をイメージする力を育む必要がある。 ・既習事項を復習する機会を設定し、理解を深め、定着を図る必要がある。	・計算の順序を意識させ、1つずつ丁寧に計算を進めさせる必要がある。 ・どのような場面で知識・技能を活用するかを考える活動を多く取り入れる必要がある。	・十分な思考時間の確保、授業の振り返り時間の確保が必要である。 ・証明問題など数学的な表現を用いる問題に多く取り組む必要がある。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	・デジタル教材を活用し、基礎・基本の反復練習を行い、学力の向上と定着を図る。 ・自分の考えを文章や数式に表現したり、問題文を図や表を使ってイメージさせる機会を作る。	・文章を読み取り、適切に表現できるようにするために、ステップを踏みながら主体的に課題に取り組めるようにする。 ・定期的にレポート課題を提出させ、単元の基礎・基本を確認させる。	・数学的な表現を用いて説明したり記述したりすることを通して説明力や論証力の向上を図る。 ・定期的にレポート課題を提出させ、単元の基礎・基本を確認させる。 ・ステディサプリーなどのデジタル教材を活用し、既習事項を復習時間を取り入れる。
指導面	・デジタル教科書を活用し、視覚的に理解させ、イメージする力を育み、数学への興味関心を高める。 ・授業の中で、現在の学習内容と既習事項との関連性を取り上げ、復習することで、「基礎・基本」の定着を図る。	・習熟度別クラス編成の利点を生かし、意欲的に取り組める課題の設定や、やる気を引き出すていねいな指導を行う。 ・授業の中で、既習事項と現在の学習内容との関連性を取り上げ、復習や確認する場面を増やすことで、「基礎・基本」の定着を図る。	・生徒の考えを引き出したり、粘り強く考えさせたりするため、既習事項の振り返りや発問の工夫、十分な時間の確保を行う。 ・関数や図形の問題ではデジタル機器を活用して、視覚的に理解できるようにしていく。 ・後期は模擬テストを行い、習熟度を考慮した問題解決の実践力を身に付けさせる。

評価

- ① 授業の自己評価表による評価
- ② 定期テスト観点別学習状況による評価
- ③ 単元テスト、小テスト、ワークシート、提出物による評価